

認定心理士認定委員会より

1. 認定委員会について

前号で、平成26年度の取得者数が3,000名を割る可能性を指摘しましたが、幸いなことにわずかですが、3,000名を超え、3,002名の方が取得されました。平成27年度第1回認定委員会（4月25日開催）では550名の審査を行いました。この人数は例年とほぼ同様です。

2. 認定心理士アンケート調査について

認定心理士アンケート調査が、認定心理士の要望、現状を把握し、日本心理学会の活動を強化し、本制度の充実とサービスの向上をはかるために実施されました。対象者は38,574名で、アンケート用紙を郵送しました。調査期間は2015年2月1日～2月20日で、不達で返送されたものが2,067名、最終的に回収されたのは7,709名でした。

アンケート結果の主なものをあげてみたいと思います。認定心理士資格取得時の大学は全337校で、最も多かったのが放送大学（24.9%）でした。現在仕事についている方が79.9%で、その内常勤職は66.4%でした。職種の主

なもの、会社員（26.5%）、公務員（14.4%）でした。仕事と心理学の関係については、二極化しており、両者にとっても関連があると答えたのが24.4%と最も多かったのですが、次に多かったのが、全く関連がないと答えた17.1%でした。心理学を生かした仕事としてあげられているものでは、教諭・保育士等が最も多く、次いで福祉専門職、心理専門職、心理学研究職という順でした。認定心理士の取得数についてみると、2004年から急激に増加しています。認定基準が変わったことによると思われる。大学卒業後どのくらいで取得したかということについては、卒業後3年までで取得する人が42.5%と多く、その後はほぼ1%前後で推移します。それが、興味深いことに、10年、20年、30年といった区切りの年には2～3%台に増加します。認定心理士の取得年齢は、最も多いのが20歳代（43.1%）ですが、次に多いのが40歳代（20.9%）、50歳代（15.6%）、そして30歳代（13.7%）と続きます。40歳代、50歳代が多いのは、放送大学での取得者が多いことに関連がありそうです。認定心理士取得の動機については、その時の仕事に必要だった（9.9%）、将来

の仕事に必要なかもしれないと思ったから（34.4%）というように仕事に動機づけられているものがある一方で、進学を学んだ証として資格が欲しかったから（48.3%）という理由も多くみられました。認定心理士の資格について知ったのは大学からのすすめ（62.2%）が圧倒的に多く、学会のホームページを見て（7.0%）は少なく、学会の広報活動の必要性が示唆されました。認定心理士の資格をもったことのメリットについては、就職時に役立った（15.1%）、給与・手当面で優遇された（15%）という回答もあるにはあるが、多くは自分自身のよりどころになった（42.7%）というようにアイデンティティにかかわるメリットが多く報告されました。詳細は、第79回大会で報告する予定です。

3. 公開シンポジウムについて

今年度も、一般向け公開シンポジウム（7企画、14回）を開催します。特に「アニメの心理学」（北海道7月26日、東京10月4日）の東京会場のあとには認定心理士25周年記念式典が予定されています。

（日本心理学会認定担当常務理事・日本大学教授 横田正夫）

編集後記

保育者を目指す学生と接するようになって、保育現場でのさまざまな配慮に驚くと同時に、「心理学」を教えることの意味や、理論と実践の関係をより強く意識するようになりました。数・算数を切り口とした今回の特集、少しでも多くの方々にお楽しみ頂ければ幸いです。おそろおそろ、しかし注文もつけつつの依頼をご快諾くださり、注文以上の深い部分まで網羅して下さった先生方に、心より御礼申し上げます。（大神優子）

編集委員（五十音順）

編集委員長
副委員長
委員

宮谷真人	広島大学
小田浩一	東京女子大学
岩壁茂子	お茶の水女子大学
神優子	和洋女子大学
大崎秀子	実践女子大学
小森政嗣	大阪電気通信大学
近藤清美	帝京大学
杉若弘子	同志社大学
時津裕子	徳山大学
林創	神戸大学
樋口匡貴	上智大学
脇田真清	京都大学霊長類研究所
阿部純一	北海道大学

担当常務理事

心理学ワールド [70号] 2015年7月15日発行

年4回発行（1月、4月、7月、10月）

発行人—長谷川壽一

編集・発行—公益社団法人 日本心理学会 〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 田村ビル TEL 03-3814-3953

表紙デザイン—虎尾 隆 印刷・製本—新日本印刷

制作—(株)新曜社